

の植物が出てくる話を聞くたび、実際に知床ば「千島の続き」なのかもしれない、と思う。ちなみに、本州などの変種のクロクモソウは、花序の毛が腺毛でなく普通毛であることで区別され、標本をみると山形県中部より南に分布しているようである。

エゾクロクモソウは暗赤色の花が「黒雲」に見えたことからついた名前だそうだが、白花のものもある。「シロクモソウ」と言ってしまうそうだが、「セイカ(青花)クロクモソウ」という名前がクロクモソウの品種としてつけられており、花色は緑色がかった白色である。花咲線の車窓から眺めていて、エゾクロクモソウがありそうな場所で降りてみると、林下の水の染み出した斜面一带に白花がみられたことがあった。道東でも南の方には白花が多いようである。釧路市博物館の近くの池の脇には赤色の花もあるそうで、赤花が全くない無いわけではないけれど、標本をみると、釧路周辺や阿寒、音別などは、

ほとんど白花である。緑白色の花の集団は、その他、青森や九州にも点々とある。一方、セイカクロクモソウの記載場所は富山の立山なので、本州中部では白花は珍しいものであるらしい。白花の分布が北から南まであちこちにみられることを考えると、実は、エゾクロクモソウは元はと言えば白花だったのではないか?という妄想が沸き上がってくるが、本当の所はどうなのだろうか。

エゾクロクモソウは道東では低地に生えているのに、大雪山の頂上付近にも生えている。さらに、長野では高山にしか生えていないのに、近畿や九州にも分布している、というのも謎である。形態の違いも含めて、エゾクロクモソウがどうやってできたのか?と想像しだすと、時間が経つのを忘れてしまう。でもちゃんと確かめようと思ったら、道東以外の高山のサンプルも集めないといけないのである…。

### 会員が撮影した 東北道の写真 3

撮影: 若松 久仁男



クシロハナシノブ  
浜中町霧多布湿原  
2012.6.16



コンセントウヒレン  
根室市  
2019.7.15